

IV 主要部位別罹患と死亡率の比較

男女計の罹患と死亡（人口動態統計による）について、数、粗率、年齢調整率を比較するとともに、罹患数の死亡数に対する比（I/M）及び死亡数の罹患数に対する比（M/I）を示した（表6）。

なお、外国人については罹患数集計では除外していないが、死亡数は除外した数値である。

届出の精度を示す第二の指標である全部位のIM比は2.69であった。

部位別のIM比は生存率の相対的な高低を示唆するものであるが、皮膚（28.60）、前立腺（7.81）、子宮（7.51）、乳房（5.86）、膀胱（4.80）が高かった。

	数		粗率		年齢調整率 ^(*)		罹患数 ／死亡数 (IM比)	死亡数 ／罹患数 (MI比)
	罹患(I)	死亡(M)	罹患(I)	死亡(M)	罹患(I)	死亡(M)		
全部位	14,972	5,560	775.6	288.0	407.5	116.8	2.69	0.37
口腔・咽頭	280	108	14.5	5.6	8.3	2.6	2.59	0.39
食道	354	151	18.3	7.8	9.0	3.9	2.34	0.43
胃	2,000	705	103.6	36.5	48.6	15.0	2.84	0.35
大腸	2,434	629	126.1	32.6	64.5	13.2	3.87	0.26
┌ 結腸	1,608	438	83.3	22.7	40.9	9.0	3.67	0.27
└ 直腸	826	191	42.8	9.9	23.6	4.3	4.32	0.23
肝臓	704	575	36.5	29.8	16.7	11.1	1.22	0.82
胆嚢・胆管	347	287	18.0	14.9	6.8	4.9	1.21	0.83
膵臓	519	479	26.9	24.8	11.7	9.7	1.08	0.92
喉頭	89	22	4.6	1.1	2.3	0.4	4.05	0.25
肺	1,771	1,128	91.7	58.4	40.6	22.8	1.57	0.64
皮膚 ^(*)	429	15	22.2	0.8	8.5	0.5	28.60	0.03
乳房	1,161	198	60.1	10.3	43.9	6.6	5.86	0.17
子宮	571	76	29.6	3.9	29.0	2.4	7.51	0.13
卵巣	117	62	6.1	3.2	4.7	1.7	1.89	0.53
前立腺	1,218	156	63.1	8.1	28.2	2.2	7.81	0.13
膀胱	595	124	30.8	6.4	12.9	1.9	4.80	0.21
脳・神経系	204	49	10.6	2.5	7.3	1.7	4.16	0.24
悪性リンパ腫	505	204	26.2	10.6	13.9	3.8	2.48	0.40
白血病	148	121	7.7	6.3	5.2	3.0	1.22	0.82
年齢調整率 ^(*) ：標準人口は1985年日本人モデル人口を用いた。								
皮膚 ^(*) ：皮膚の黒色腫を含む								

2013年における特定部位の罹患数と死亡数を男女別に比較した（図17、18）。

男では罹患数3位の肺、女では罹患数2位の大腸が死亡数では1位であった（付表11、12、22、23）。

生存率を反映するIM比は男の前立腺（7.8）、女の子宮（7.5）、乳房（5.8）が高く、これらの部位は予後が比較的良好と考えられる。

図17 罹患数及び死亡数2013年<特定部位>—男—

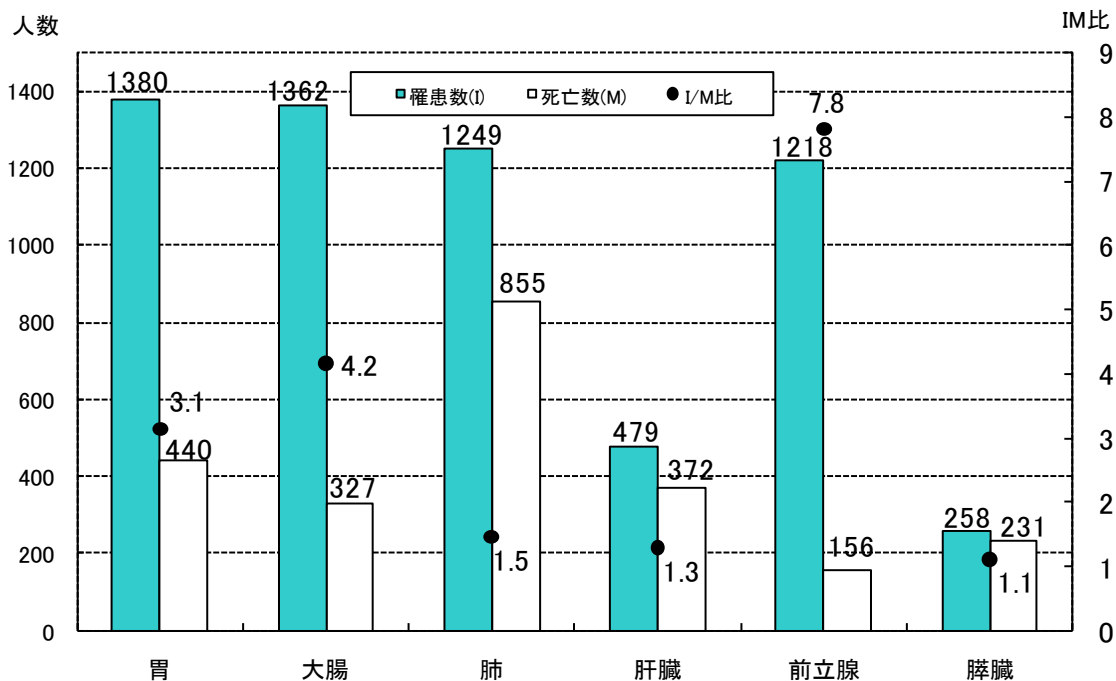
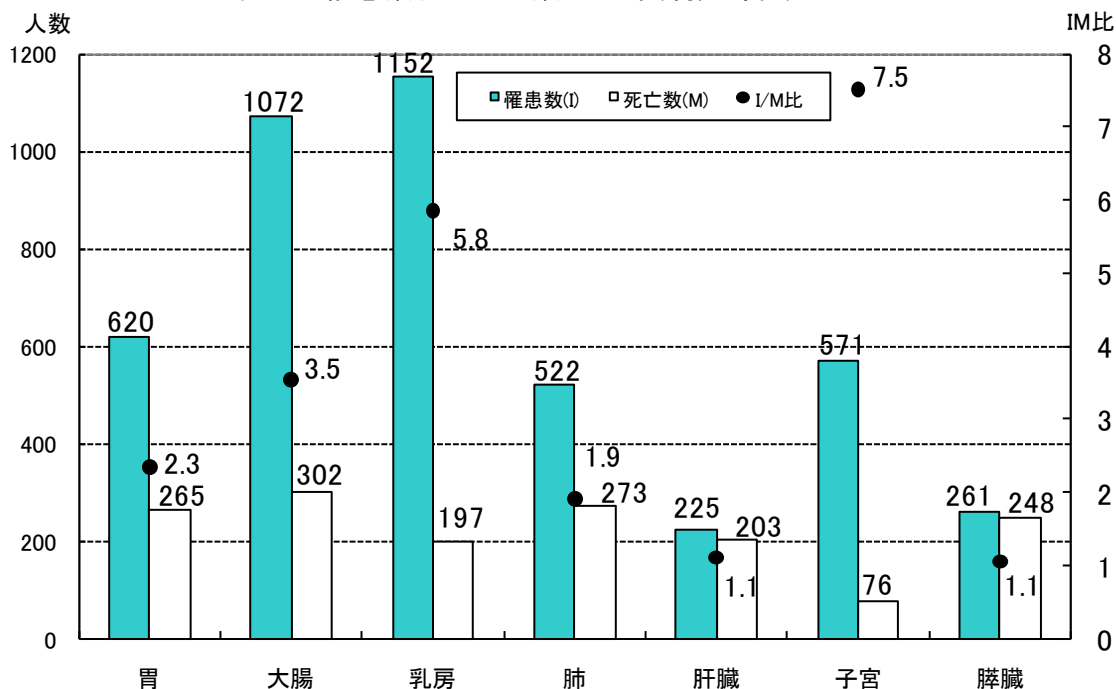


図18 罹患数及び死亡数2013年<特定部位>—女—



V がんの受療状況

1. 受診動機

(1) 特定部位別受診の動機分布

受診の動機の分布を特定部位別に示した（表 7）。「集団検診（集検）」及び「人間ドック」は自発的検診としてまとめて表示した。

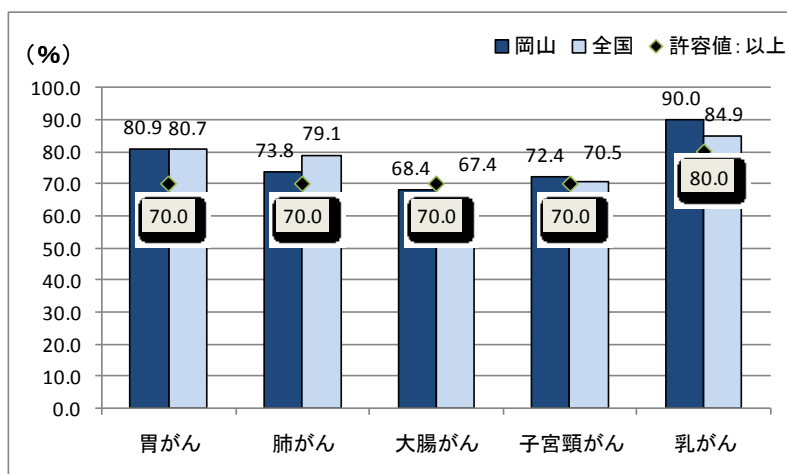
判明者の内訳は、全部位は「他病治療中」が 19.0%、「自覚症状」が 12.7%、「集検又は人間ドック」が 7.3%となった。

部位別では「集検又は人間ドック」の割合は乳房で最も多く 19.1%。次いで子宮、前立腺、結腸、胃、直腸の順になった。「自覚症状」は乳房が最も多く 23.5%、「他病治療中」は肝臓が 32.2%で最も多かった。

表7 受診の動機の分布:特定部位別、男女計 2013年

	届出患者数	受診の動機が判明しているものの割合 (%)	受診の動機 (%)			
			集団検診又は人間ドック (自発的検診)	自覚症状 (医療機関受診)	他病治療中	その他
全部位	14,740	98.9	7.3	12.7	19.0	60.7
胃	1,976	98.7	8.9	12.4	17.8	60.6
結腸	1,584	99.0	10.7	16.2	17.2	55.9
直腸	819	99.0	8.5	19.7	12.3	59.2
肝臓	684	98.0	0.6	7.6	32.2	59.1
肺	1,724	98.8	4.9	7.2	24.4	63.3
乳房	1,154	99.2	19.1	23.5	7.5	49.9
子宮	570	99.1	14.2	13.8	16.5	54.7
前立腺	1,209	98.9	13.2	6.6	22.4	57.5

【参考】市町村が実施するがん検診の精検受診率及び全国との比較（平成 25 年度）



【出典:厚生労働省「平成 26 年度地域保健・健康増進報告」】

(2) 受診の動機別、根治的治療実施割合

検診群（集検又は人間ドック）、非検診群について、根治的治療（手術、内視鏡的治療、体腔鏡的治療）の受療割合を示した（図19、20）。根治的治療の受療割合は検診群が全部位で94.4%と非検診群の83.8%を上回った。各部位でも検診群の方が非検診群に比べ高い。非検診群では特に肝臓、肺、前立腺において根治的治療の実施割合が低かった。

図19 根治的治療実施割合<検診群>2013年

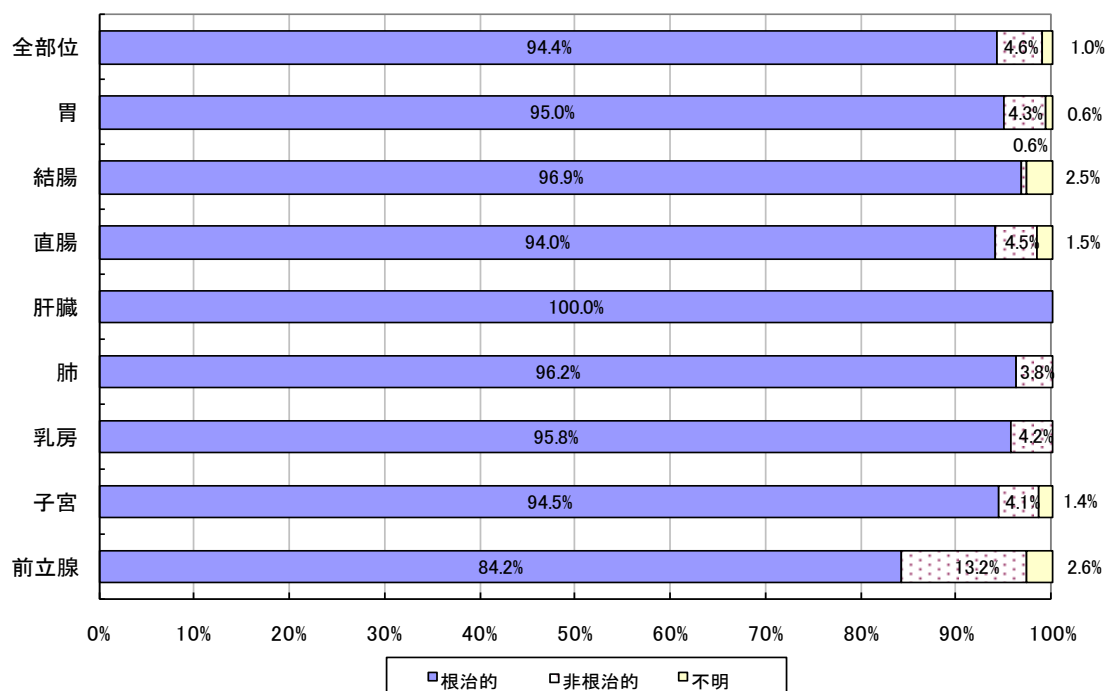
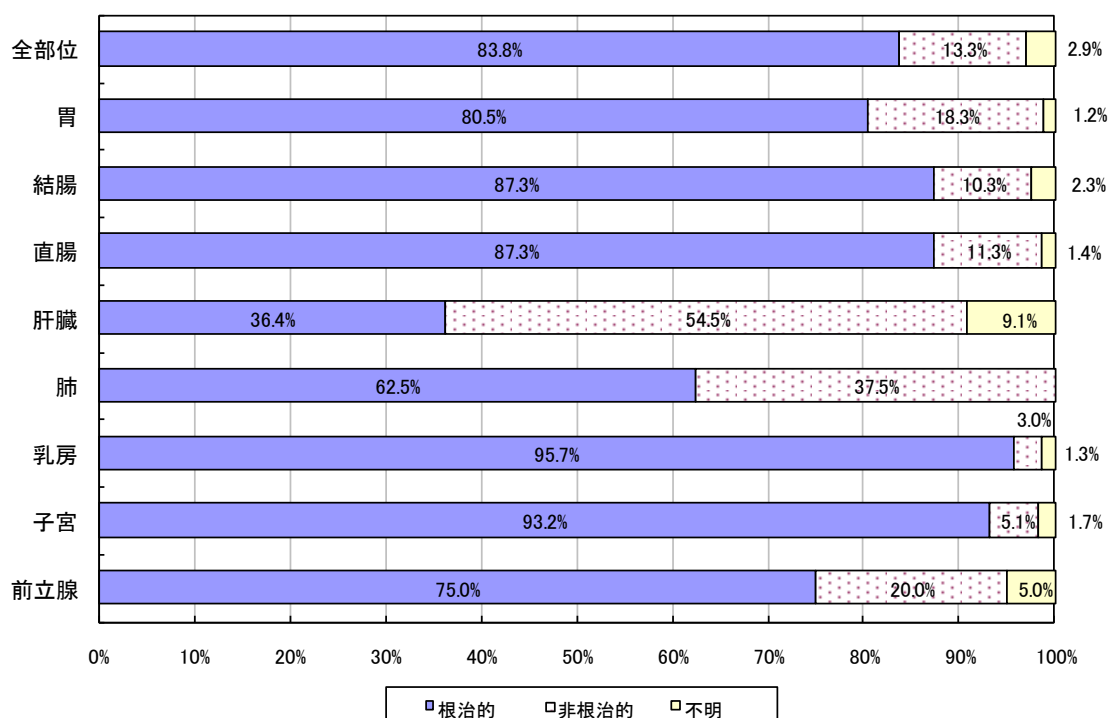


図20 根治的治療実施割合<非検診群>2013年



(3) 部位別、進行度割合

検診群、非検診群について進行度別割合を示した(図21、22)。上皮内がんの占める割合は検診群では子宮が70.0%、非検診群でも子宮が29.5%と高くなっている。また、どの部位においても、リンパ節や他の臓器への転移もなく原発臓器内にとどまっている割合は検診群の方が高かった。

図21 進行度割合<検診群> 2013年

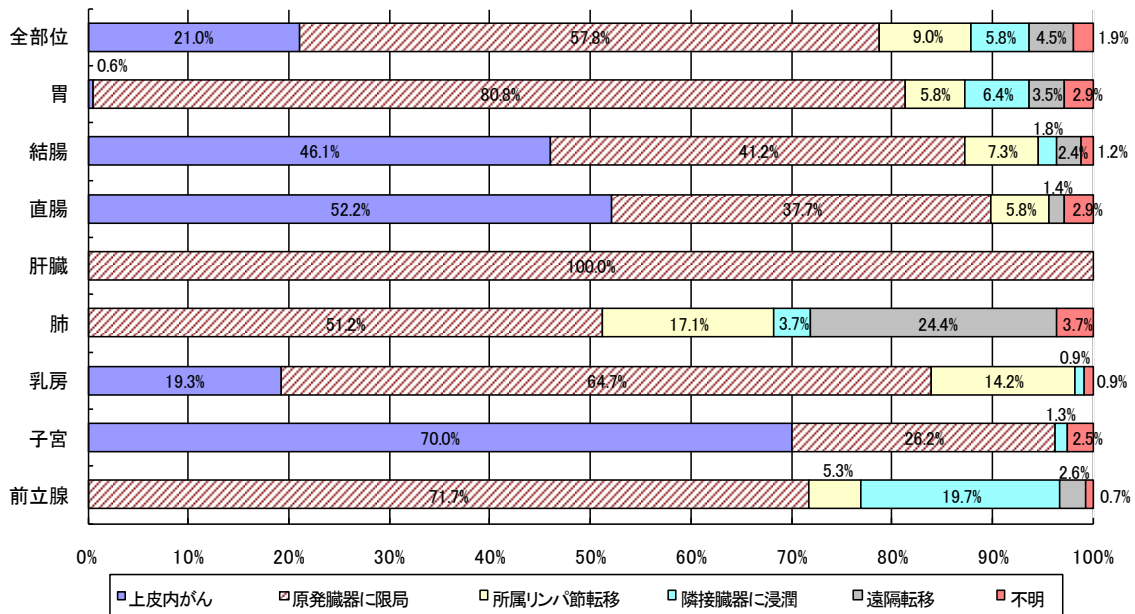
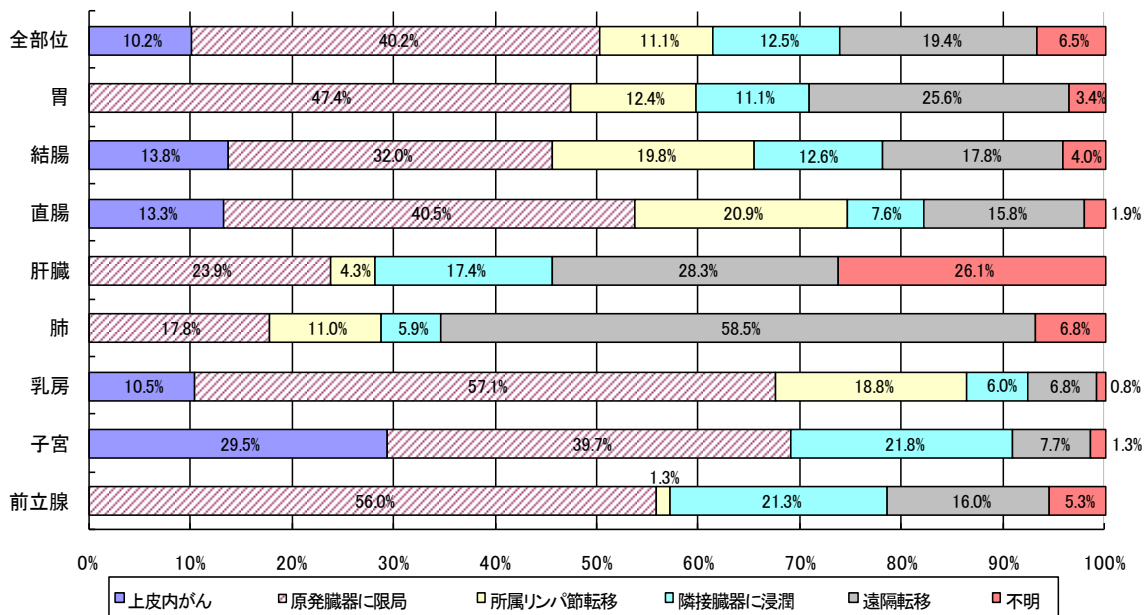


図22 進行度割合<非検診群> 2013年



2. 診断方法の分布

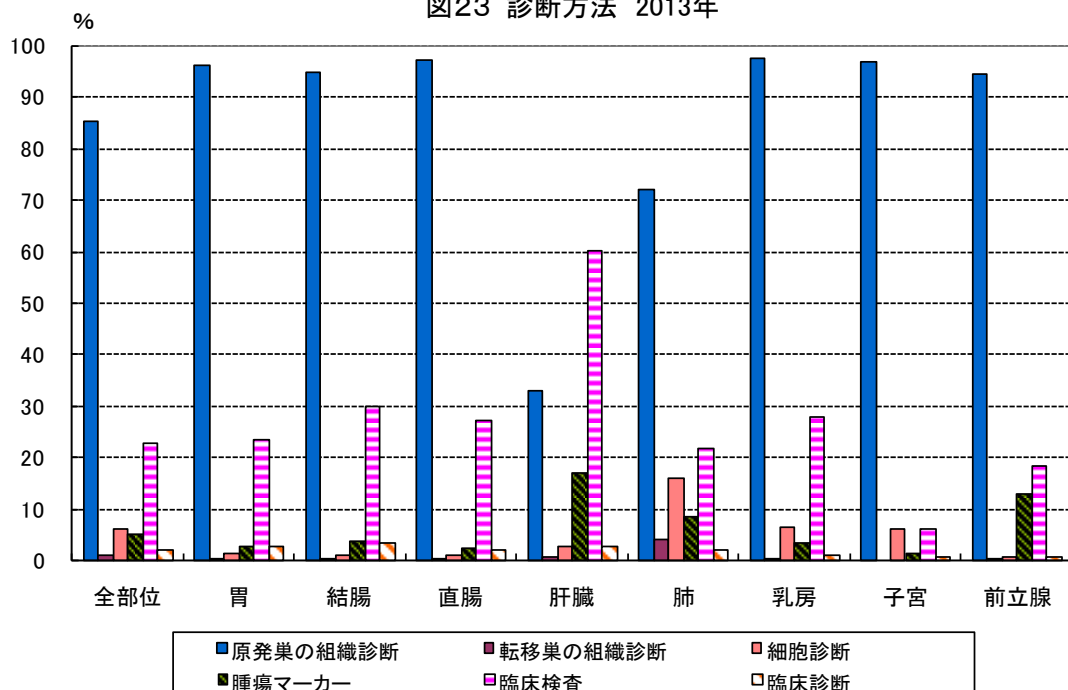
診断方法の分布を示した（表 8、図 23）。複数の診断方法を受けた場合にはそれぞれの診断方法ごとに重複して計上した。

診断方法実施率の割合は全部位では原発巣の組織診断が 85.3%と高く、次いで臨床検査、細胞診断、腫瘍マーカー、臨床診断の順であった。部位別では肝臓以外の部位は組織診断（原発巣の組織診断、転移巣の組織診断）が実施された割合が高く、細胞診断は肺、乳房、子宮が比較的高かった。

表8 診断方法実施率の分布: 特定部位別 2013年

	届出患者数	診断方法		診断方法実施率の分布(%)					
		不明(%)	判明(%)	原発巣の組織診断	転移巣の組織診断	細胞診断	腫瘍マーカー	臨床検査	臨床診断
全部位	14,740	1.2	98.8	85.3	1.1	6.2	5.0	22.6	1.8
胃	1,976	1.2	98.8	96.3	0.4	1.2	2.4	23.3	2.4
結腸	1,584	0.6	99.4	95.0	0.1	1.0	3.7	29.7	3.2
直腸	819	0.6	99.4	97.2	0.1	1.0	2.3	27.1	1.8
肝臓	684	2.2	97.8	33.0	0.6	2.5	16.7	59.9	2.4
肺	1,724	1.8	98.2	71.9	4.0	15.8	8.2	21.6	1.9
乳房	1,154	0.8	99.2	97.5	0.3	6.4	3.1	27.7	0.7
子宮	570	0.2	99.8	96.8	0.0	6.2	1.1	6.0	0.4
前立腺	1,209	1.2	98.8	94.6	0.1	0.7	12.8	18.1	0.6

図23 診断方法 2013年



3. 治療方法の分布

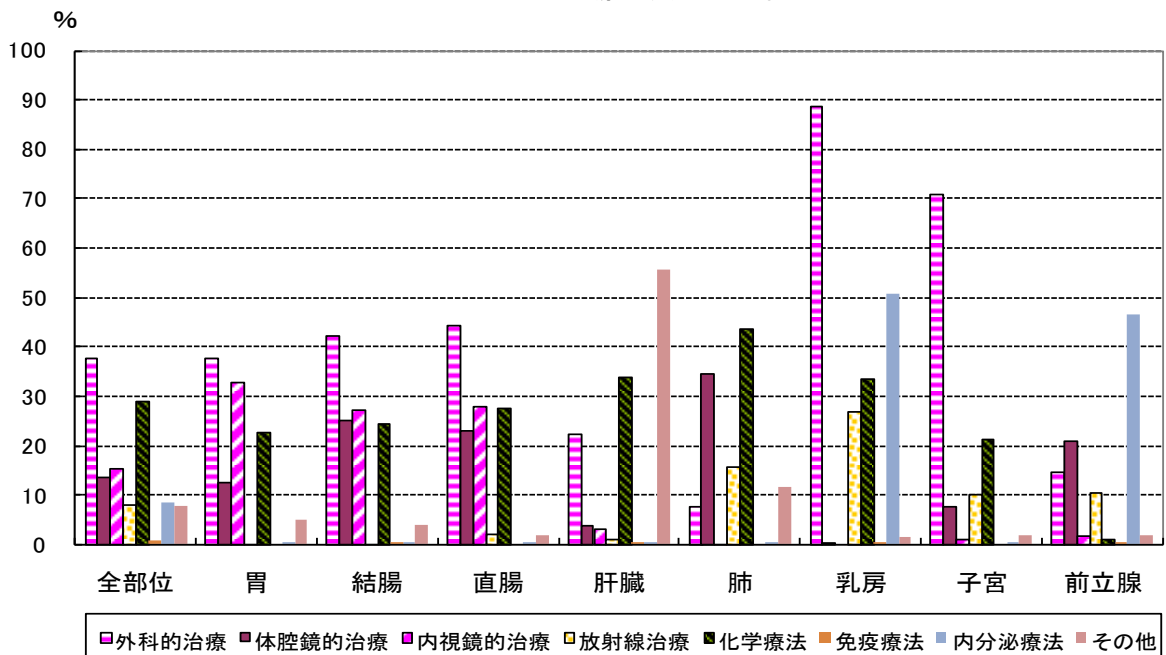
治療方法の実施率の分布を示した（表 9、図 24）。治療について、併用療法を受けた場合にはそれぞれの治療方法ごとに重複して計上した。

全部位では「外科的治療」の割合が最も高く 37.7%であった。部位別で見ると「外科的治療」の割合が高いのは乳房（88.7%）、子宮（70.9%）、直腸（44.3%）、結腸（42.3%）で、低いのは肺（7.6%）であった。「放射線治療」は乳房（27.0%）、肺（15.5%）で高く、「化学療法」は肺（43.6%）、肝臓（33.7%）で高かった。

表9 治療方法実施率の分布:特定部位別 2013年

	届出患者数	治療方法		治療方法実施率の分布(%)							
		不明(%)	判明(%)	外科的治療	体腔鏡的治療	内視鏡的治療	放射線治療	化学療法	免疫療法	内分泌療法	その他
全部位	14,740	3.6	96.4	37.7	13.5	15.3	8.0	29.0	0.7	8.4	7.8
胃	1,976	3.6	96.4	37.8	12.6	32.9	0.1	22.6	0.0	0.1	5.0
結腸	1,584	2.7	97.3	42.3	25.0	27.2	0.1	24.3	0.1	0.1	3.8
直腸	819	2.0	98.0	44.3	22.9	27.9	2.0	27.5	0.0	0.1	1.9
肝臓	684	5.4	94.6	22.3	3.7	3.1	1.1	33.7	0.5	0.2	55.6
肺	1,724	5.2	94.8	7.6	34.6	0.2	15.5	43.6	0.0	0.1	11.5
乳房	1,154	1.7	98.3	88.7	0.1	0.0	27.0	33.4	0.4	50.9	1.7
子宮	570	1.6	98.4	70.9	7.7	0.9	10.2	21.4	0.0	0.2	1.8
前立腺	1,209	5.1	94.9	14.6	20.8	1.8	10.5	0.9	0.2	46.6	1.8

図24 治療方法 2013年



4. 診断時の病巣の広がり

診断時の臨床進行度（病巣の広がり）を示した（表10）。

本登録室では、1 上皮内、2 原発臓器に限局、3 所属リンパ節転移、4 隣接臓器に浸潤、5 遠隔転移の5 病期分類からなる「臨床進行度分類」を採用した。

がんが原発臓器に限局（上皮内がんを含む）していたのは全部位で 55.5%であった。部位別では皮膚、膀胱で 80%を超えた。「隣接臓器に浸潤」については胆嚢・胆管、卵巣が 40%を超え、「遠隔転移」についてはリンパ腫などが 50.8%、脾臓が 46.1%と極めて高く、これらの部位は病期が進んでからの発見が多いと言える。

		届出患者 2013年					
部位	臨床進行度 判明(%)	判明者中の分布(%)					
		上皮内がん (A)	原発臓器に 限局(B)	(A)+(B)	所属リンパ節 転移	隣接臓器に 浸潤	遠隔転移
全部位	93.4	10.1	45.4	55.5	8.6	12.9	16.4
口腔・咽頭	97.6	6.1	39.3	45.3	15.4	33.6	3.2
食道	95.2	15.0	31.4	46.4	10.8	27.5	10.5
胃	95.6	0.1	60.7	60.8	9.9	8.5	16.4
結腸	96.2	19.9	35.3	55.2	14.5	11.4	15.0
直腸	96.3	20.8	39.5	60.3	14.1	8.7	13.2
肝臓	92.1	0.3	68.5	68.8	3.0	10.2	10.1
胆嚢・胆管	82.4	0.0	16.3	16.3	2.3	42.8	20.9
脾臓	94.9	1.1	7.3	8.4	3.1	37.3	46.1
喉頭	98.6	12.3	57.5	69.9	9.6	17.8	1.4
肺	96.0	0.2	37.5	37.7	9.4	9.1	39.8
皮膚 ^(*1)	95.5	22.8	66.9	89.7	1.2	4.2	0.5
乳房	97.6	12.8	56.2	69.0	19.7	3.7	5.3
子宮	96.6	44.9	34.7	79.6	1.7	11.1	4.2
卵巣	92.6	0.0	35.2	35.2	0.9	42.6	13.9
前立腺	96.1	0.0	65.4	65.4	2.0	19.3	9.4
腎など ^(*2)	96.3	9.1	55.9	65.0	1.6	18.0	11.7
膀胱	95.0	51.2	35.5	86.7	1.0	5.2	2.1
脳など	78.7	0.0	74.9	74.9	0.0	2.2	1.6
甲状腺	96.5	0.0	54.8	54.8	30.6	5.7	5.4
リンパ腫など	90.5	0.0	23.0	23.0	0.0	16.7	50.8
多発性骨髄腫	13.9	0.0	2.8	2.8	0.0	0.0	11.1
白血病など	21.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.5
皮膚 ^(*1) : 皮膚の黒色腫を含む							
腎など ^(*2) : 上皮内がんは「その他の泌尿器」に属するもので占められる							

